

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-99	高等学校	地理歴史	地理探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
130二宮	地探703	地理探究		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、教育基本法および学校教育法の趣旨を踏まえ、高等学校学習指導要領の「地理探究」の目標・内容・内容の取り扱いに則り、以下の趣旨に基づいて編修しました。

① 世界と日本の今を、的確に判断する能力を身につける

グローバル化や情報化が進む現在、世界の変化は著しく、複雑かつ多様化しています。世界や日本で今、何がおきており、そこにはどのような背景があり、どのような影響が広がっていくのか、地理総合で学んだことを土台にして、世界や日本のそれぞれの地域の特性を正しく理解し、的確に判断する能力の育成をめざします。

② 次世代のよりよい社会の形成に、主体的に参画する態度を培う

経済格差の拡大や地球環境問題、難民の増加など、世界は今、一国では解決できないさまざまな課題に直面しています。日本も、少子高齢化・人口減少の進行や、食料や資源の自給率の低さなどに対処しつつ、産業の国際競争力を維持しながら、社会を持続的に発展させていくことが求められています。世界や日本の具体的な事例について、自分も地球市民の一員であるという自覚と、主権者としての視点を持ち、自ら構想し、解決に向けて主体的にかかわる態度の育成をめざします。

【編修の留意点】

編修の趣旨を実現するため、各単元において以下の点に留意して教材の構成を行いました。

① 系統地理的考察と地誌的考察を連携させた深い理解

系統地理と地誌の幅広い理解に向け、系統分野と地誌で取り上げた12地域の連携をはかり、全分野をもれなく取り上げるよう構成しました。地理総合の学習で得た理解をさらに深めます。

② 単元の学習内容と流れをわかりやすく提示

各見開きに「イントロ」と「まとめと探究」を設定し、その学習の意味づけを明確にしました。各所に問いや自ら調べるテーマを示すなど、さまざまな視点から理解が深まるよう促します。

③ テーマを探究する特設ページ「新しい視点」「日本を知る」「海洋からみた世界のつながり」

各分野の最後に、具体的なテーマで学習を深める見開きの特設ページを設定しました。これまでになかった切り口から、より詳しい資料や地図を通して新しい動向や背景、課題を探究します。

④ 世界の今をあらわす資料を充実、地理的技能の向上

産業や国際情勢など、多様で新しい統計資料や図版を取り入れました。資料の読解や技能コラムを通して、地理的な思考力・判断力を高めます。GISで作成した地図も多用しています。

⑤ 将来の日本の国土像について、五つの分野からテーマを設定して探究

地理探究の学習の総まとめとして、日本の国土像について「自然災害」「産業の成長」「人口減少」「多文化共生」「エネルギーの安定供給」からテーマを設け、探究活動を行うページを設定しました。

2. 編修の基本方針（教育基本法第2条）

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

- 世界と日本における現状や課題を平易に記述し、テーマごとに設けたコラムや特設ページによって内容を深く掘り下げ、幅広い知識と教養を身に付けることができるようにしました。
- 世界の人々の文化や暮らしのようすを実感できる写真や紹介コラムを多く掲載し、豊かな情操を培うとともに、自然、社会と人間とのかかわりの中から道徳心を養えるようにつとめました。
- 国土像の探究を行うにあたっては、テーマの設定から仮説の設定、課題の探究、さらに発表を行うまでの道筋を示し、生徒が自ら課題を発見し、解決に向けた方策を導き出すことを促し、真理を求める態度を養えるようにしました。

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

- 現在、私たちが直面しているさまざまな地球的課題や身近な地域の課題について、多様な意見や異なる価値観を尊重したうえで解決をはかることの必要性を考えさせるようにつとめました。
- 国による経済発展の違いや南北の格差、途上国における厳しい労働環境の現状を理解させることで、どのようにしたら世界の人々が等しく幸福を享受できるかについて、考えさせています。

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

- 世界にはさまざまな民族が暮らし、また、多様な価値観をもった文化・宗教が存在するなかで、公平・公正な社会を築くためにどのような考え方や取り組みが必要であるかを学ぶことから、将来の社会参画に必要な公民としての資質を身に付けられるようにつとめました。

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

- 世界各地にみられる生活文化は、各地域の自然的環境の影響を受けながら育まれたものですが、近年、人間の営みによってその自然的環境が良好に維持されない状況が続いています。そのような現状を理解し、未来に向けた持続的な環境保全の必要性について考えさせています。
- 私たちの住む地球には、人間だけではなく、動物や植物を含む生物が多様性に富んだ生態系を形成しています。人間の経済活動や無秩序な行いがそのような生態系に与える影響について理解させ、生命を尊重することの意識と態度を養えるようにつとめました。

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

- 多様で豊かな自然環境に恵まれている日本には、さまざまな伝統や文化があり、それらは衣食住など暮らしのなかに脈々と受け継がれていることを理解させています。
- 世界には多様な伝統・文化・慣習があることを理解し、日本でも、多様な文化をもつ人々が共生する平和的な社会を築くことができるよう、必要な知識・態度を養えるようにつとめました。
- 生徒が、これから国際社会に主体的に生きる一人の人間として成長できるよう、国際社会における諸課題について多面的・多角的に理解し、持続可能な社会の形成に向けた方策を自ら考えていくことができるようにつとめました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体について		
持続可能な開発目標 (SDGs) との関わり	教科書の全編を通して、持続可能な開発目標 (SDGs) の課題に関連した資料を取り上げ、各々の課題は独立しておらず、複雑に関連しあっていることを理解させ、将来、生徒が SDGs の担い手となるよう資質・能力を高めることを目的としている (第一号) (第二号) (第三号) (第四号) (第五号)。	全体
まえがき：『『地理探究』で世界がみえてくる』 あとがき：「よりよい世界を構築するために」	地理学習により基本的な知識を身に付け、自分なりの見方・考え方を確立することが社会参画への大切な素養となることをうたい、社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することの大切さを、教科書のまえがきとあとがきに記載した (第一号) (第二号) (第三号)。	iii, p.315
各編の中扉	系統地理的考察、地誌的考察、日本の国土像と段階を踏んで学習するにあたり、各編の冒頭で、本文内容と関係する迫力のある写真を大きく取り上げ、学習への意欲を喚起するようにした (第一号)。	p.7,189, p.292-293
「イントロ」と「まとめと探究」の設定	本文各見開きページの冒頭に、本項で学ぶ内容についての着目点を示した導入文を設け、自ら考える動機づけを行っている。また見開きの最後に、本項で学んだことの知識の定着をはかることを目的とした「まとめ」、さらに自ら考え、調べるなどの探究活動を促す「探究」を設置した (第一号)。	全体
「地理の技能」の設定	地理総合で修得した地図・GIS に関する技能を基盤に、さらに、課題に関する資料をまとめるために必要な地理の技能を、学習の習熟度に応じて基本から発展へと、段階を追って身につけられるようにした。「地理の技能」コラムや、資料性の高い図、作業や問いかけなどを豊富に取り上げた (第一号)。	全体
問いかけの設定	本文や図表・写真に関連した問いかけの欄を適宜設けて、学習したことをさらに調べたり、自分の考えをまとめたりする機会を設定し、自らの調べ学習によって学習を深め、幅広い知識や教養を得られるようにした (第一号)。	全体
「ポイント補説」コラムの設定	テーマに沿って、さらに学習を深めるコラムを置くことで、自主的に学び、興味を喚起するよう工夫した (第二号)。	全体
二次元コードによる ICT 教育支援	本文に適宜配置した二次元コードを読み込むことで、動画や地理院地図などのデジタル地図、学習に役立つ外部サイトにジャンプし、紙面からだけでは得られない情報を読み取れるよう配慮した (第一号)。	全体

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 編 現代世界の系統地理的考察		
系統地理的学習全体	世界的視野から人々を取り巻く環境の多様性や国際情勢をとらえ、現代世界のかかえる地球的課題の解決を担う力を養成する。特に、地球環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、村落・都市問題など、先進国・発展途上国それぞれの立場の違いを考え、解決に向けて国際協力する重要性を理解させる（第三号）。	第 I 編 全体
第 I 編第 1 章 自然環境	世界のさまざまな自然環境について、地形・気候の各事象を成因から現象まで体系的に整理し、各気候区においてはそこで人々はどうのような暮らしを営んでいるのかを考察させる（第一号）。	p.8 ~ 73
第 I 編第 1 章 5 節 地球環境問題	森林減少・砂漠化・大気汚染・地球温暖化などの現状や背景、国による立場の違いなどを理解させ、解決に向けての国際的な動きについても捉えさせる（第三号・第四号）。	p.64 ~ 73
第 I 編第 2 章 資源と産業	グローバル化が進み、国境をこえた農業・鉱工業などの活動が盛んになり、国家間・企業間の競争が激しさを増す一方で、国際分業や企業連携なども進んでいる。各分野の具体例を通して、世界の経済的な動きの現状と課題を理解させる（第二号）。	p.74 ~ 121
第 I 編第 3 章 人・モノ・金のつながり	交通や通信の発達により人やモノの移動が活発になり、また、世界的な貿易自由化の流れが進んで、国境を越えた経済活動が活発化している現状を認識させるとともに、交通・通信、貿易・観光に関わる課題のほか、世界的な感染症の広がりが国際化の動きを停滞させる現状を理解させる（第一号）（第五号）。	p.122 ~ 141
第 I 編第 4 章 人口、村落・都市	増加し続ける世界人口を概観し、その上で増加傾向にある地域と減少傾向にある地域それぞれの現状と課題を認識させる。また、集落における立地の特徴や規則性を概観し、都市が形成される過程と都市化による課題、さらにその解決・改善方法を探らせる（第三号）。	p.142 ~ 165
第 I 編第 5 章 文化と国家	写真や世界スケールの主題図を中心に、地球上にはさまざまな言語・宗教・文化をもった人々が暮らしていることを捉えさせ、民族固有の文化を尊重することのたいせつさを理解させる。その一方で、異なる民族・宗教間で起きる対立や、少数民族の独立、さらに難民の発生など、現在進行している課題の背景や要因についても理解させ、国際社会の安定について考えさせる（第五号）。	p.166 ~ 188
第 I 編第 5 章② 3 日本の領土に関する問題 第 I 編第 5 章② 4 海洋国家としての日本	日本の位置を認識させるとともに、日本固有の領土である北方領土・竹島・尖閣諸島について、地理的な観点から現状を理解させる。また、海洋国家としての日本について、海底資源や水産資源の有用性を捉えさせるとともに、海上交通や海洋開発の重要性を考えさせる（第五号）。	p.182 ~ 185
特設ページ「新しい視点」	各系統学習において、最新の動向や研究について解説した「新しい視点」という特設ページを設定した。冒頭に「問いかけ」末尾に「まとめ」を設け、主題追究型のページ展開で、詳しい記述と資料から、新しい視点による探究学習を促している（第一号）。	p.40,56, 72,80, 116,128, 158,186
特設ページ「日本を知る」	各系統学習の区切りに、日本の特色・課題を捉える「日本を知る」という特設ページを設定した。世界の学習をふまえて、例えば、日本の食料自給率、自然エネルギーへの転換、産業空洞化の克服など、現在、日本がかかえる課題と解決への動きについて、具体例を通して理解させる（第三号）。	p.90,102, 118,130, 140,150, 164

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察		
地誌学習全体	世界の12地域を取り上げ、バランスよく学習する。各地域の自然、産業、文化などから、地域的特色を具体的にとらえ、それぞれの背景にある歴史的な流れや課題、日本との関係を理解し、国際理解を深める(第一号)。	p.196～ 291
比較地誌学習 第Ⅱ編第2章⑤ 西アジア・中央アジア 第Ⅱ編第2章⑥ 北アフリカ・サブサハラアフリカ	「文明の十字路」とよばれ、アジアとヨーロッパの結節点にある西アジアと中央アジア、広大な大陸を南北に区分した北アフリカとサブサハラアフリカは歴史、文化、国際関係などにおいて、それぞれ類似性・対照性をもつ。項目ごとに比較しながら、それぞれの地域の特徴について理解を深める(第一号)。	p.230～ 237 p.238～ 245
特設ページ 「海洋からみた世界のつながり」	海洋に着目して、地域のつながりを歴史・文化・社会・自然などから読み解く。日本海と3大洋(インド洋・大西洋・太平洋)について、その沿岸地域がいかにして関わりをもち、どのように影響を与え合ったかを理解させる。これまで扱ってこなかった海洋でのつながりに焦点を当てたことにより、地誌学習の理解をよりいっそう充実させた(第一号)。	p.212, 246,280, 290
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像		
第Ⅲ編① 現代日本に求められる国土像	2050年の日本の姿を展望し、将来直面する日本の課題とその解決の方向性、さらには豊かな国土像を構築するための手法について探究し、表現することを目的とする。「持続可能な開発目標(SDGs)」の取り組みなどを参考にしながら、これまでに学習してきた内容をふまえ、探究学習に取りかかれるように日本の課題を四つの視点から分析する事例を示した(第二号)。	p.294～ 307
第Ⅲ編①3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給を目指して	エネルギーの安定供給について、[課題の設定]→[仮説の設定]→[情報収集と調査]→[分析と考察]→[まとめと発表]といった手順を示し、前項の4事例のほか、生徒自らが設定した課題の解決に向けた探究学習の具体的な活動例を提示している(第二号)。	p.304～ 307

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 大判紙面に、本文・テーマと関連する主題図・写真・設問・用語解説・コラムなどを掲載し、資料性の高い紙面になっています。生徒自らが学習しやすいよう、有機的に視覚的に配置しています。
- 全般にわたり、多様で幅広い題材を扱うことで内容を充実させ、知識の修得を確実に行えるようにしました。
- 各見開きの最後に、各項で取り上げた重要用語をまとめて配置して、知識の定着をはかるようつとめています。
- 文章の表現を正確にわかりやすくするとともに、太字を適切に配置し、振り仮名を豊富につけるなど読みやすいようにしています。
- 系統地理・地誌が相互に補完できるよう、関連ある内容や地理用語には該当箇所を示す参照ページをつけました。用語解説や地域事例など、円滑に参照しあえるようになっています。
- 地理学習の基本となる図法や地図およびGISについて、巻末にそれぞれの理解を深める付録を設けた。
- カラーユニバーサルデザインを考慮し、色覚特性を持った生徒にも読み取りやすいものとなるよう心がけています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-99	高等学校	地理歴史	地理探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
130二宮	地探 703	地理探究		

1. 編修上, 特に意を用いた点や特色

本書は, 高等学校学習指導要領の「地理探究」の目標・内容・内容の取り扱いに則り,

- 1) 世界と日本の今を, 的確に判断する能力を身につける
- 2) 次世代のよりよい社会の形成に, 主体的に参画する態度を培う

上記2点の趣旨を実現するよう, 以下, ①~④の特色を中心に編修を行いました。

特色① 主題や学習内容を明確化, 高校生が自ら学びやすい誌面構成

紙面サンプル p.266-267 アングロアメリカ

図表の読み取りや, 作業を通して理解を促す

イントロ 見開きの学習内容の着目点を提示

言葉の整理 類似・対比する用語を整理

ポイント補説 具体的な事例から本文を補足

豆知識 見開きに関連する地理のトリビア

ワード 見開きを理解するうえで重要な用語

情報源 さらに自ら調べて探究する際に役立つ資料を紹介

2 社会の多様性と多文化社会

移民による アングロアメリカでは, インディアンと呼ばれる先住民の歴史も紹介されている。移民の増加は、人口に占めるヨーロッパ系住民の割合は減りつつある。アフリカ系住民の比率は、奴隷制度が長く続いた南部諸州のほか、20世紀の工業化による人口移動を背景に、北部の一部の大都市でも高くなっている。ヒスパニック系住民は、メキシコとの国境近くで増加している。二国間を連絡する幹線道路には、国境を越えて双子都市とよばれる都市が発達している。メキシコ側には安価な労働力を背景にマキラ・ドラーが活用された工場群が広がっている。メキシコからアメリカへの不法入国者も多く、国境付近では厳重な取り締まりが行われている。アジア系住民はロサンゼルスなどの太平洋岸の諸都市に多いが、ニューヨークなどの東部の大都市でも増加している。大都市の市街地では、特定の民族や文化集団が集中して暮らす、人種や民族の住み分け(セグリゲーション)も生じている(等脚)。

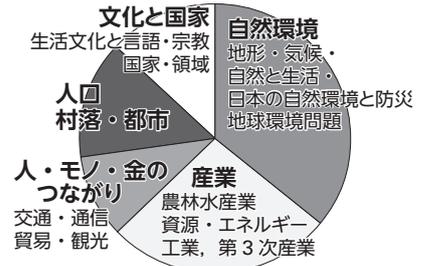
まとめと探究 学習の振り返りとともに、発展的な学習を提示

- ・「イントロ」「まとめと探究」「ワード」により, 学習内容や意味づけを明確にしました。
- ・地理総合教科書の基本デザインを引き継ぎ, 学習の継続性に配慮しました。
- ・本文をサポートする図版・写真・設問・欄外解説・コラムなどを豊富に掲載しました。

言葉の整理 (30 欄), ポイント補説 (36 欄), 豆知識 (111 欄)

特色② 系統地理的考察から地誌的考察へ、そして日本の国土像の探究学習へつなげます

系統地理と地誌の連携をはかり、地理的な知識が確実に身につくように内容を網羅しました。また、身につけた知識を活用して諸課題を探究して解決策を構想できるよう、構成を工夫しました。



第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察

各分野の国際的な情勢や最新事情を反映しました。

例1：地球温暖化対策 適応と緩和 (p.68～)

IPCCによる2100年までのシナリオを踏まえ、温暖化対策として「適応」と「緩和」の両立が重要であること。

例2：再生可能エネルギーの推進 (p.100～)

発電効率の向上や低廉化とともに、小水力やバイオマス発電や買取制度などの整備が進んでいること。

例3：グローバル化する工業生産と多国籍企業 (p.114～)

製造を委託し工場をもたないファブレス企業、複数企業から製造を請け負うEMS企業など新しい動き。

例4：人口移動により生じる課題 (p.147～)

移民と難民の受け入れ国側にも、相手文化を尊重する多文化主義と規範を求める同化主義があること。

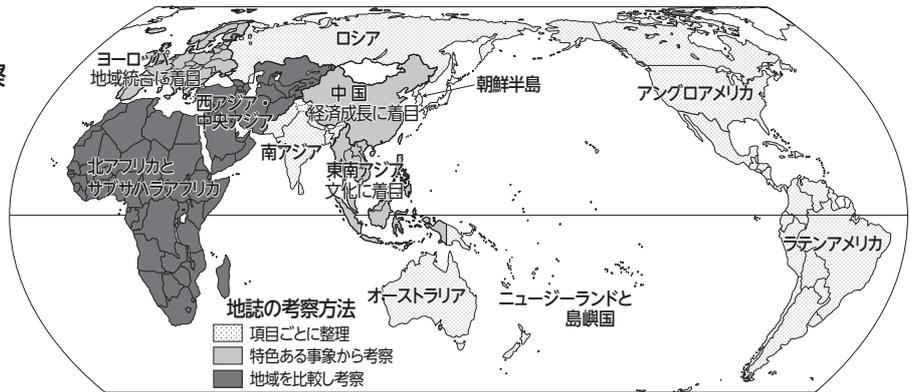
第Ⅰ編 取り上げた項目とページ配分

第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察

世界の諸地域を偏りなく学習できるよう、12地域・国をバランスよく取り上げました。

- ① 項目ごとに整理
- ② 特色ある事象から考察
- ③ 地域を比較し考察

の3手法から考察します。



第Ⅱ編 取り上げた地域・国

第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像

これまでの学習をふまえ、日本の課題について現状の把握から考察を進め、国土像を探究します。

探究活動の例 資源少国・災害大国である日本/電力の安定供給をはかるには？

1. 課題の設定

2. 仮説の設定 情報収集と調整

3. 分析と考察

4. 解決への提言

特色④ 地理の技能を段階的に習得できるよう設定しました

**① コラムにより資料の考察力・判読力をアップ
全 21 テーマ**

地形図読図 扇状地/氾濫原/河岸段丘/
海岸平野/陸繋島/カルスト台地

グラフから世界の気候をつかむ

景観写真の読み取り

ハザードマップでリスクを知る

主題図と統計から読む小麦・米の流通形態

統計で読むエネルギー資源の推移

分布から読む工業の立地指向

三角グラフから産業構造の変化を読む

地図と統計で読む輸送機関の特徴

階級区分図と散布図から読む人口増加

地形図読図 村落の機能と形態/新旧地形図で読む変化

写真から読む暮らしの地域性 衣服/食生活/住居

アフリカの**地域区分**を考える

地理の技能

地形図読図⑧ 新旧地形図で読み解く村落や都市の変化

工業地区からオフィス・サービス地区への変化

土地利用の変化に着目

1960年代後半と現在の横浜・港南区

地理の技能

食生活から読む暮らしの地域性

食生活から読む暮らしの地域性

写真を判読

食文化圏の日本では、どのような場合に手食やナイフ・フォーク食となるのか考えてみよう。

↑目 手で直接、口に運ぶ(インド、2010撮影) 食べ物を口に運ぶ手や使用する箸などに決まりがある。

↑目 二本の箸でつまむ(中国、2009撮影) 長い箸は食べ物を大皿から自分の小皿に取る場合に便利である。

↑目 ナイフで切ってフォークで刺す 個々に分けられた食べ物を好みの大きさに切るのに適している。

地理の技能

統計で読むエネルギー資源の推移

グラフの推移を比較し判断

図①-③は、1981年から2010年の推移をあらわしたの国にあたるかを考えて

排出と消費の上位5位国(2019年)の特徴を読み取り、それぞれ

↑目 石炭の産出ベスト5

↑目 石油の産出ベスト5

↑目 天然ガスの産出ベスト5

↑目 石炭の消費ベスト5

↑目 石油の消費ベスト5

↑目 天然ガスの消費ベスト5

② 資料性の高い図・写真を掲載。ウェブサイトやGISを活用し、さらに技能を深める。

標高の色分けを自分で設定

↑目 台地と低地の地形 地理院地図で標高を台地と低地の広がりを読み取りやすい(→p.3)

地理院地図の3D表示や自分で行う色の設定、土地条件、過去の衛星画像など、活用例を充実させました。

地球の大気循環をリアルに

二次元コードを利用し、ジェット気流の動きを、ウェブサイトで確認

●ウェブサイトで見ると、現在の偏西風の動きを追ってみよう。

●GIS上で、国・地域別に、①国・地域名(3文字略称)、②総人口、③栄養不足人口が記されたデータを読み込み、国・地域別に塗り分けられた地図と関連づけ、図④や図⑤のような地図を描いてみよう。

●栄養不足人口と総人口のデータをダウンロードしよう。

階級区分図と図形表現図

↑目 国・地域別の栄養不足人口割合(階級区分図)

↑目 国・地域別の栄養不足人口(図形表現図)

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境 ① 地形 ② 気候と生態系 ③ 世界各地の自然と生活 ④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題	A(1) 自然環境	8頁～73頁	23
	第2章 資源と産業 ① 農林水産業 ② 資源・エネルギー ③ 工業 ④ 第3次産業	A(2) 資源, 産業	74頁～121頁	17
	第3章 人・モノ・金のつながり ① 交通・通信 ② 貿易・観光	A(3) 交通・通信, 観光	122頁～141頁	7
	第4章 人口, 村落・都市 ① 人口 ② 村落・都市	A(4) 人口, 都市・村落	142頁～165頁	9
	第5章 文化と国家 ① 生活文化と言語・宗教 ② 国家とその領域	A(5) 生活文化, 民族・宗教	166頁～188頁	8
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察	第1章 地域区分	B(1) 現代世界の地域区分	190頁～195頁	2
	第2章 現代世界の諸地域 ① 中国 ② 朝鮮半島 ③ 東南アジア ④ 南アジア ⑤ 西アジア・中央アジア ⑥ 北アフリカ・サブサハラアフリカ ⑦ ヨーロッパ ⑧ ロシア ⑨ アングロアメリカ ⑩ ラテンアメリカ ⑪ オーストラリア ⑫ ニューージーランドと島嶼国	B(2) 現代世界の諸地域	196頁～291頁	35
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像 ① 現代日本に求められる国土像	C(1) 持続可能な国土像の探究	294頁～307頁	4	
			計	105